



広島女学院報



新しい年のモットー 「真の国際人とは〜グローバル化を支える教養」

広島女学院院長・学長 湊 晶子

昨年11月4日、大学開学70周年・学院創立133周年記念講演とシンポジウムを、「真の国際人とは〜グローバル化を支える教養〜」と題して、ホテルグランヴィア広島に於いて越智光夫広島大学学長、高井昌史紀伊國屋書店代表取締役会長兼社長をお招きし、本学院院长・学長も加わり盛大に開催されました。会場には約530名の方々が集りくださり、熱気につつまれつつも、和やかなひと時でした。

越智広島大学学長は、「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人」の育成のために、各界で活躍されているリーダーやノーベル賞受賞者を招いて、講演会や平和教育に積極的に取り組むばかりでなく、留学プログラムを充実させ「世界トップ100」を目指している広島大学の現況をお語りくださいました。

高井紀伊國屋書店代表取締役会長兼社長は、「世界の現場から見るグローバル化」について、国内72店舗、海外10カ国37店舗を組織するトップとして、海外の大学図書館や海外店舗から見えてきたことを中心に世界における日本文化の受け止められ方について興味深く紹介されました。

私は戦前・戦中・戦後を生き抜いてきた者として、63年前の留学経験とこれまで国際会議に参加した経験から見えてきたことについて、勝負決定戦である「トス・ザ・コインとジャンケン」の違いを例に次の二点から語りました。まず、「真の国際人として国際社会に立つためには『一人称で語る』勇気が必要であること」について、次に、西欧的意識構造が「表か裏か、イエスカノーかの二元的思考」であるために緊張関係に陥りやすいのに対して、日本的意識構造は「三元的思考から生み出される寛容の精神」に立って、世界に対して「もう一つの解決の道」を示す責任があることについて語りました。

戦後、日本において数々の教育改革がなされ、その一つが「教養教育」でした。教養教育・リベラルアーツ教育と言われて久しいですが未だに明確な位置づけがされていません。キリスト教に立脚した大学の人格教育・教養教育に対する責任は大きいと思います。クリスチャン教育者であった新渡戸稲造の「人はどこか動じないところ、譲れぬという断固とした信念がなければならぬ。人格神との関係性、対話性の中に人格は形成される」という理念は100年を経た今も生きて働く言葉です。

本学の教育理念に、「ぶれない個の確立」を据えている意味は大きいと思います。「入学という入口の偏差値」よりも、「卒業という出口の人格」に焦点を当てた教育こそ「真の国際人」を育成する原点であると思います。松下幸之助先生が、「それは私の責任です」と言いきれてこそ責任者足り得る」と述べておられる通りです。本学が創立以来守ってきた「キリスト教に立脚した人格教育と真の国際人の育成」を新しい年のモットーとして掲げたいと思います。



大 学

University

2019年度(第37回)

広島女学院大学公開セミナー

「英語再発見―言語と文化の

おもしろさをとおして―」



言語と文化のおもしろさを通して「英語再発見」を目指し、国際英語学科の教員による全4回のセミナーを10月に実施しました。第1回は、波多野五三教授による「学校英語のプラダマティズム」映画『ローマの休日』を愉しむです。有名な映画を題材に、学校で習う文法知識がどのように英語のコミュニケーション能力の基礎を築くかを体験していただきました。第2回は、John Herbert教授による“English in the 21st century - the wonder of diversity”です。英語がどのように進化し他の言語に影響を与えてきたのかを知り、英語の多様性に対する人々の態度にふれました。第3回は、磯部祐実子准教授による「味わう英語―英文学の原書を読む楽しみ―」です。イギリス文学作品の原文に触れ、翻訳には現れない英語の奥深さを通して文化的・社会的背景を掘り下げ、英語と文学作品を味読する楽しさを感じていただきました。第4回は、関谷弘毅准教授による「英語の学び方再発見―へえ、そう言うんだ」小さな感動を大切にしたいです。言語活動を通して外国語を学ぶ方法の理解を深め、実践に生かすことを目指しました。今後魅力的な公開セミナーを開催してまいりたいと思います。

(国際英語学科長 John D. Herbert)

新酒の干支ラベルをデザイン



干支をデザインしたラベルを冠した新酒が、今年も発売された。生活デザイン学科の産学連携デザインプロジェクトの1つで、2017年から西條鶴醸造株式会社(東広島市)と取り組んでいる。授業「地域連携デザインセミナー」において、学生はラベルやパッケージデザインに関する講義を受け、酒都・西条の街歩きを通して地域のデザインにも触れた。そして、手描きあるいはPCグラフィックソフトを駆使して、ラベルデザインに取り組んだ。

応募総数46点より、西條鶴による選考が行われ最優秀賞が決定。3年生宇都宮祐希さんの案が選ばれた。この「2020」という数字のフォントは、酒の原料である米粒をイメージしたオリジナルデザインである。

2018年(戌)は贈り物として華やかなデザイン、2019年(亥)は大切な人の笑顔に映えるデザイン、2020年(子)の白鼠は子孫繁栄の象徴であり、健やかな一年になることを祈るデザイン、と実用化されたラベルは、コンセプトが明快である。そして、デザインのイメージに合わせて、毎年杜氏が味の調整を行うという。「酒造り」というクリエイティブな作品作りの一部に参加できることを感謝したい。

(生活デザイン学科長 細田みぎわ)

糖尿病料理コンテストで

専門性の学びを発揮

2019年11月7日から第58回東洋・東南アジアライオンズ(OSEAL)フォーラムが「平和を学び、祈る」というテーマで3日間開催されました。その中のイベントの一つとして、広島大学医学部連携の糖尿病関連セミナー「糖尿病料理コンテスト」が実施され、広島女学院大学の管理栄養学科3年 16名が参加しました。この糖尿病料理コンテストは病院の栄養部門の職員や広島県内の管理栄養学科のある大学の学生など6施設が参加し、会場にいられた一般の方に試食を提供、その後に優秀施設を投票して頂き、優勝、準優勝を決めるコンテストでした。通常の料理コンテストとは違い、広島県産の食材を活用して糖尿病の方にお勧めできる料理に仕上げ、さらにステージでプレゼンテーションを行います。広島女学院大学は「レモン香る広島サーモンとちりめんの炊き込みご飯」を考案し、材料にはもち麦、ごぼう、こんにゃくを使用し、血糖値の上昇を緩やかにする工夫をしました。残念ながら優勝には届きませんでしたが、学生は衛生面に配慮しながら美味しい食事を提供する難しさや、参加者に「美味しい」と言ってもらえたことによる達成感を実感することが出来たようです。

(管理栄養学科長 石長孝二郎)



レモン香る広島サーモンとちりめんの炊き込みご飯

全国大学生俳句選手権大会で「佳作」受賞



日本文化学科の学生が、鈴木しづ子顕彰プロジェクト実行委員会が主催する全国大学生俳句選手権大会で佳作を受賞しました。

授業で学んだ俳句表現の知識を活かして、日本文化学科の2年生全員が俳句を作り、応募しました。受賞作、受賞者は、次のとおりです。

- ①「腰かゞめ 息そろえ継ぐ、花田植」
(瀧本末季さん)
 - ②「田舎道 雨や流るゝ ピアノの音」
(宗瑞希さん)
 - ③「のそりのつそり 陽も傾きぬ かたつむり」
(亀井涼香さん)
- なお、受賞者には、日本文化学科学長から賞状と副賞が授与されました。(日本文化学科 柚木靖史)

シヤレオ大学生コンサートへの出演

― 社会に届ける歌のメッセージ ―

11月23日、一般社団法人教育ネットワーク中国が主催し、シヤレオ中央広場で広島県内の大学生が集結するシヤレオ大学生コンサートに児童教育学科の学生が出演しました。学科では課程科目を超えて社会や自然と関わる多様な研究会を設立し「こどもチャレンジラボ」と名付けて、主体的で追究的な学びを深めています。午後の部では、子育て応援や施設訪問など、社会のニーズに応じて表現する「こどものうた研究会」が出演しました。「明日また幸せであるように」と歌う声が多く、多くの観客が見守るなか、広島市の中心で豊かに響きました。



エンディング曲「YUME日和」

(児童教育学科 森保尚美)

2019年度秋季宗教強調週間

2019年10月14日(月)～18日(金)

『安泰』を捨て、ANTI-NTIに向かえ

～ J・POPの神学

今季宗教強調週間は10月14日(月)の特別チャペルで幕を開け、宗教センター事務課長・坂野康文さんが今夏のご経験から、道東の教会の歩みと松本卓夫先生との不思議な関わりをお語りくださった。

10月15日(火)・16日(水)には特別講師として、深澤獎先生(日本キリスト教団佐世保教会牧師、活水学院理事長)をお招きした。両日の講演では、RADWINPSとSEKAI NO OWARIの歌詞を神学的に読み解いていくという刺激的な考察が、プロ並みの弾き語りとともに披露された。学生たちに親しみのあるアーティストを題材に、話の糸口としての分かりやすさに加え、深いメッセージを湛え、説得力に富んだ講演に引き込まれたひとときであった。両アーティストの楽曲には、間テクスト的に神学的な読み込みができるというレベルを超えて、語句の選び方やテーマそのもの、キリスト教への深い理解を示唆する歌詞がちりばめられていることは驚きであった。講演で語られた『安泰』を捨てて「ANTI(アンタイ)」を選び取れ、というアジェンダに溢れたメッセージは、これこそイエス・キリストが宣教した福音(マルコ第1章15節)ではなかったか、と思わされ、心が躍った。

10月15日(火)夕刻の教職員向け講演会では、ヨハネ4章のサマリアの女性のエピソードから、「活水」の校名の由来とともに、キリスト教主義女子教育の本質ならびに重要性が語られた。参加者が少なかつたのが心残りである。

10月17日(木)には沖縄キリスト教平和研究所主催の平和学習(8月)に、本学を代表して参加した相原結芽子さん(管理栄養学科1年)が、かの地での学びと交流を経て、歴史が現在を形作っているという認識を自らつかみ取ってきたことを語って下さった。

(大学宗教委員長 澤村雅史)

第七〇回あやめ祭開催

11月16・17日で第七〇回あやめ祭が開催されました。本学学生のスタンツで幕を開けた野外ステージでは、湊学長が挨拶をされ大いに盛り上げて下さいました。午後は、インディーズの世界では超人気の三人組「キヤラメルペッパーズ」が、「元気がいっぱい」のパフォーマンスを披露しました。模擬店は、学生の他、先生方などの積極的な協力もあり、三二店舗と例年をはるかに超える出店数でにぎわいました。

二日目もカラオケ大会やおなじみ「万貴音(まきね)のお二人のすてきなハモニー」、他大学学生によるスタンツ合戦と、熱いステージが続きました。

ランバスホールで行われた川口春奈さんのトークショーは、「二四〇枚の前売り券完売という盛り上がりぶり。数日後に彼女はNHK大河ドラマ『麒麟がくる』への出演が決定しましたから、実行委員には先見の明があったようです。そして今年度も生活デザイン建築学科(現生活デザイン学科)によるファッションショーで最後を飾りました。

二日間に来場された方は約三〇〇〇人。特に二日目は大入り状態でした。あやめ祭開催にあたりご尽力くださった皆様に感謝申し上げます。

(学生課長 宇根治)



中学・高校

Junior high school & High school

高2 沖縄修学旅行

10月1日〜4日の四日間、高校2年生は渡辺校長先生を団長に、沖縄の修学旅行に行きました。台風の影響が心配されましたが、好天に恵まれて全行程を無事終えることができました。



前半は「オキナワ」を知る平和学習の旅です。初日は地域ガイド風の会比嘉涼子さんからチビチリガマで起こった悲劇について魂のこもったお話を聞きました。二日目は①沖縄尚学高校との交流会②平和祈念公園フィールドワーク③沖縄陸軍病院壕飯上げ体験④対馬丸記念館⑤基地の街コザ・フィールドワーク⑥嘉手納基地屋良地区フィールドワークの

六つのコースに分かれ、「オキナワ」の過去・現在・未来について学びました。先人たちの大きな痛みを経て今ここに私たちが生きている奇跡、そして未来の平和を築く責任。自分たちの生き方を見つめ直す二日間でした。

後半は沖縄の自然を体感。美ら海水族館の見学後は、シュノーケリングやシーカヤック、シーサー・パイロジャム・黒糖・お菓子・美ら海キャンドルづくりに繰り出しました。最終日は首里城見学の後、国際通りを散策し、沖縄を後にしました。

自らを成長させてくれた修学旅行での経験を、残り一年余りとなった女学院の生活に活かしていきたいと思っています。(高2学年主任 那須泰)

中3 長崎研修旅行

台風の直撃が危ぶまれていたが、幸いなことに進路が長崎からやや離れたことと、最接近が夜半になったことで、研修旅行は予定通り10月2日〜4日に行えることとなりました。

初日、生徒たちは平和公園を基点に班別で平和関係の施設や史跡をめぐるしました。惜しむらくは、時折、激しい雷雨に見舞われ、いくつかの班は予定通り研修ができなかったことです。後で聞けば、市内電車も不通になってしまいうくらいの激しい雷雨だったそうです。

ホテル到着後は、被爆者の方々のお話をクラス別に聞く機会を持ちました。長崎と広島との違いもあつたが核兵器の持つ無差別で大量殺戮兵器である面を再認識し、平和への想いをより強くした一日でした。

二日目は、原爆落下中心地で平和セレモニーを行った後、各班の興味に応じて長崎市内を巡りました。訪問箇所は自分たちで決め、ルートも調べ、地図を片手に自分たちだけの力で研修を進めました。いつもスマホに慣れている生徒たちが紙の地図だけで、長崎の地を巡れるのだろうかかと心配していましたが、四苦八苦しながらも何とか集合時間には全員きちんと集まり、生徒たちのたくましさを感じました。

最終日はハウステンボスでの自由行動。生徒たちは入場後お目当てのアトラクション等に一目散。天候にも恵まれ、本当に楽しそうでした。

この研修旅行では、長崎に関する学びだけでなく、学びの手法や学んだ内容を表現する技法についても深めることができました。今後の学校生活にぜひつながって欲しいと思います。(中3学年会旅行係 島田克央)



今進^{イマジン}だった文化祭

今年の文化祭は11月3日の日曜日、文化の日に開催されました。今年度の文化祭のテーマは「今進^{イマジン} imagine」です。「今進」にはどんな壁にぶつかっても諦めることなく今を進んでほしいという思いを、また想像力豊かにという意味の「imagine」には女学院生が持つ斬新かつしなやかなアイデアを活かして物事に取り組もうという意味が込められています。そのテーマをもとに今年の文化祭では去年と変わった点が幾つかあります。高校のHR発表では準備の進め方を変えて、一人一人のアイデアを活かすことができるようにしました。中学では生徒の作品展示会場を増やし、日頃の成果が伝わるものとなりました。クラス、学年、部活動、委員会がそれぞれの場所で日々の生活の中で築き上げてきたつながりをもとに団結して個々の色鮮やかな個性が輝いた文化祭になったと思います。この文化祭を作り上げることができたのは、先生方、PTAの方々や事務・技術職員の方々の協力のお陰です。ありがとうございました。

HR発表で、カーリングをしています。うまく得点できるかな？



生徒もお父さんと一緒にお餅をついています。



HR発表で、カーリングをしています。うまく得点できるかな？

(高校生徒会執行委員長 本田菜那子 高校生徒会顧問 中原克芳)

キリスト教強調週間(11月11日～16日)

主題「いのち・寄りそい・希望」、主題聖句「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む」(ローマの信徒への手紙5章3～4節)、講師に立野泰博先生(日本福音ルーテル教会牧師)をお迎えしました。

立野先生は、パレスチナの子ども難民支援、東日本大震災直後から宮城県石巻河北・北上地区の救援活動などに関わって来られました。現地の写真を映しながら、「もし自分だったらと想像してほしい」と、分離壁の中に閉じ込められて、仕事や学校に通うにも、病院に行くにも検問で何時間も待たされ、家が破壊され、家族や自分の命が危険に晒される様子を伝えられました。そんな状況の中で生きる子どもたちが、また、東日本大震災で多くの大切なものを失った人々が、「破壊され、苦しみの中から復興したヒロシマ



が「希望だ」と語るそうです。「痛みや苦しみのただ中で、人が寄り添う時、そこに希望が生まれる。」というメッセージと共に、パレスチナの切り倒されたオリーブの木と松島の松の木で作られたパンフルート(中村純氏)・ピアノ(三輪真理氏)・歌(平田玉代氏)も演奏され、心に沁み入りました。

学年別活動では、社会のさまざまな分野の講師の先生との出会いや具体的実践活動を通して「隣人と共に生きる」ことを考える時間を持ちました。

中学では、週間中の昼休み、映画『僕はイエス様が嫌い』を上映し、キリスト教学校に通う少年と小さなイエス様との出会いを通して、祈ること、信じることの意味を問いかけられました。映画の中で、女学院の湊院長先生のお孫さんの内海彩花さんが讃美歌の伴奏をされています。

高校では、昼の集いの他、「被爆バイオリンコンサート」を開催しました。大学資料館に保管・展示されているパルチコフ先生(ロシア人)の被爆バイオリンを、ロシア出身のエカテリーナ・シマキナさんが演奏されました。

(宗教教育委員会 刀称館美也子)



被爆バイオリンコンサート



学年別活動 中2 車いす体験

讃美歌コンクール・クリスマス礼拝

中学讃美歌コンクールでは、各クラスの練習の成果である美しいハーモニーと共に、讃美歌のメッセージの豊かさを味わいました。

中学クリスマス礼拝では、その課題曲を学年ごとに合唱し、合唱部、YWCA部(ハンドベル)、放送部の聖書朗読などと共に捧げました。

高校クリスマス礼拝は、音楽部、音楽選択生、吹奏楽部、オーケストラ同好会による合唱や演奏、放送部による聖書朗読などがあり、最後は、全校生徒のハレルヤ合唱がホールいっぱい響きわたりました。

夜の女学院クリスマスでは、保護者、卒業生、一般市民の方々と共にクリスマスの喜びを分かち合いました。藤井瑠璃子先生(日本基督教団キリスト教教育主事)より、「イエス様は悩みや苦難の中でも、その人らしさを生かして歩めるように寄り添って下さる『ワンダフルカウンセラー』として私たちのもとに来て下さったのだ」というメッセージをいただきました。

(宗教教育委員会 刀称館美也子)



女学院クリスマス

幼稚園

Kindergarten

ゲーンズ幼稚園って
どんなところ？

「自由保育」「自然保育」の園ですよね、と問われることが多いのですが、どちらも必要十分ではありません。一言で称するなら「キリスト教保育」の園です。聖書の言葉に従って子ども「主体性」を重視し、神様の創造された「自然」の恵みにふれる環境を整えている園です。「自由」や「自然」は手段であって、保育の目的は「神と共に働く」こと。平和を創り出すという学院全体の建学の精神と一致します。保育の原理も聖書の言葉「成長させてくださる神」です。自由でのびのびはいけれど、好き勝手にわがままな子になるのでは？との声も聞こえてきますが、「自由」には「責任」も伴います。また、自然や身近な環境と関わり、仲間と共に過ごす生活にはたくさん「不自由」も経験します。大人が意図して教えようとしなくても、子ども自ら学び育つ場がここにあります。

(幼稚園 園長 高田憲治)

墓前礼拝

10月中旬、比治山にあるゲーンズ先生のお墓に年長組の子どもたちが訪れました。いざ墓前に立つと、子どもたちはお墓が聖書の形をしている事、そこに刻まれた「Workers Together With God」に関心を持ち、保育者が語るゲーンズ先生の話熱心に耳を傾けていました。アメリカからこの広島で広島女学院のため、身も心も捧げてくださったゲーンズ先生の事を想い、共に祈りを捧げました。

(幼稚園 横沢政人)



みんなで分かち合うって素敵だね

アドベントを迎えて

アドベントを迎えた幼稚園に、素敵な2人組のお客様が来てくださいました。その名も「おんぷらんと」。広島を中心に活動するパフォーマー。この日もジャグリングやバランス芸、大きなトランプや風船など、ドキ・ワクワクのステージでした。どうなるんだろう…と固唾を飲んだり、すごい！と拍手をしたり、次々と繰り広げられる芸に見入る子どもたち。楽しいことを独り占めせず、みんなで分かち合い、温かな気持ちになりました。

(幼稚園 大賀美鈴)



ゲーンズ先生の墓前に祈りを捧げました。

クリスマス

アドベントに入るとロウソクに灯りをともしながら、年長児はページェントによる礼拝を重ね、年中少児もイエス様誕生のお話を聞きクリスマスの讃美歌を歌う日々が始まります。自由遊びの時間にはページェントが遊びのひとつとなって自主的に繰り広げられていき、子どもたちはイエス様を身近に感じて遊んでいます。またクリスマスには欠かせないプレゼント作りがあります。大切な家族のみんなが喜んでくれる顔を思いながら心を込めて作っていきます。クリスマスに向かう生活は子どもたちの心も体も輝かせ、友だちとの繋がりが一層深くなっています。こうしてクリスマス礼拝では、恵と喜びが満ちあふれる豊かな時が与えられました。

(幼稚園 木村和美)



「今日あなたのために救い主がお生まれになりました。」

事務局

Secretary

2019年度

広島女学院全学院研修会報告

2019年度広島女学院全学院研修会の実行委員は、古重歌織主事(幼稚園)、野中里恵教諭(中高)、増原康人教諭(中高)、佐藤努准教授(大学)、前田美和子准教授(大学)、田形積事務職員(大学)、権藤昂子事務職員(大学)および田村直也事務職員(法人)の8名で発足しました。

湊晶子院長による研修会全体の方向性を確認し、本廣賢吾事務局長、松原高己事務局次長兼総務課長との意見交換を踏まえ、今年度の研修会の準備をしました。

研修会は、本学院の創立記念日である10月1日(火)午前9時から正午に開催され、「少子化・高齢化時代を迎えて」これまでの女学院・これからの女学院」というテーマのもと、総勢166名(大学教員48名、中高教員42名、幼稚園教員11名、事務職員65名)の参加となりました。

第1部は、大学のヒノハラホール5階アセンブリーホールにおいて行われ、始めに中高の矢野一郎教諭による聖書朗読(「コリントの信徒への手紙1第3章6〜9節」、「マルコによる福音書第4章30〜32節」と祈祷、中川日出男理事長による開会の挨拶が行われました。湊晶子院長の「院長メッセージ」としての講演では、これまでの学院への強い思いと教職員への労い、これからの新しい夢に対しての想いが述べられました。その後、参加者166名を、おおよその年齢別に分けた10グループに編成し、ヒノハラホール2・3階への移動後、各グループで輪になる形でイスに座り、グループディスカッションに移りました。時間中は、個々の女学院に対する思いを披露することとなり、時代を共有しながら各部署で働いてこられた方々の言葉を、垣根を越えて共有することになりました。そしてその後、場所を再び5階アセンブリーホールに移し、各グループ代表者による話し合い内容の発表、総評としての高田憲治幼稚園園長からのまとめがあり、第1部が終了となりました。

第2部は、会場をヒノハラホール3階のカフェテリアに移し、茶話会を開催しました。第1部での交流により、初めて同年代であることに気付いて言葉を交わされた方々も多く、普段異なる校部でお働きの方々とも、和やかな歓談のひとときを持つことができました。後半には、森保尚美准教授(大学)の演奏により童謡「故郷」を、梅田桃香教諭(幼稚園)の演奏により讃美歌301番「山べにむかいて」を皆で合唱し、最後に澤村雅史大学宗教委員長による祈祷をもって、会は終了しました。委員一同、全学院研修会における皆様のご協力に感謝申し上げます。

(広島女学院全学院研修会実行委員長 佐藤努)



第35回広島女学院
クリスマスコンサート・メサイア

第35回広島女学院クリスマスコンサート・メサイアは、12月22日(日)ゲインズホールにて星野晴夫先生の指揮のもと開催されました。多くの方々のご尽力によって無事コンサートを終えることが出来ました。年の瀬の忙しい時期ではありましたが、会場に足を運んでくださった方々、練習に参加くださった皆様、そして運営を手伝っていただいた方々に感謝申し上げます。今回は去年に引き続きたくさんの方々の男性の方にご参加いただきましたが、例年に比べると全体数としては参加者が少ない年でした。しかし人数の減少を感じさせないほど迫力ある素敵なコンサートになったのではないかと思います。

今回は大学クワイヤ隊長として合唱の総括を務めさせていただきました。私自身至らぬ点も多く、本番まで不安でしたが、コンサートを終えられた時は安心感と同時に寂しさも感じました。本番では練習の成果を出せるよう、星野先生に教えていただいたポイントを意識して臨みました。特にハレルヤコーラスでは、その場にいた全員が一つの素晴らしい音楽を作り上げることが出来、その一体感に歌っている私も思わず鳥肌が立ちました。そのような素敵な歌声の一員として参加できたことをとてもうれしく思います。聖歌隊の活動としましても、今回ははじめて多くの場所で歌声をお届けする機会をいただき、大変ありがたく思っています。その全ての場面で皆様により良い歌声をお届けするため、これからも練習に励んでまいります。応援のほどよろしく願います。

最後になりましたが、今回のメサイアにあたって協力してくださった全ての方々から感謝いたします。来年のメサイアでもお会いできる事を、クワイヤ一同楽しみにしております。

(聖歌隊クワイヤ隊長 国際教養学部国際教養学科 GSEメジャー3年 折本 鞠香)



次期学長選任

学校法人広島女学院は、第178回理事会において、次期学長として三谷高康氏(桜美林大学教授・前桜美林大学学長)を選任いたしました。

なお任期は2021年4月1日〜2025年3月31日までであり、新学長就任までの間は、理事会の要請により、湊晶子現学長が引き続き学長の任にあたります。

湊晶子現学長が引き続き学長の任にあたります。湊学長のもと、教職員一同大学の運営に全力をつくしてまいりますので、今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。

(理事長 中川日出男)

会議報告

10月定期評議員会

20219年10月19日10時から開催。

【諮問事項】

2019年度事業計画の執行状況について、事業実施の方向性や進捗状況、下半期への課題等について確認し、承認。寄附行為及び寄附行為施行細則の変更について、私立学校法の一部改正に伴い、寄附行為及び寄附行為施行細則の変更を行うもので、変更内容を確認後、承認。

【報告事項】

学事報告。第177回理事会。2019年10月25日14時から開催。

【審議事項】

2019年度事業計画の執行状況について、事業実施の方向性や進捗状況、下半期への課題等について確認し、承認。寄附行為及び寄附行為施行細則の変更について、変更内容を確認後、承認。

容を確認後、承認。大学原則の変更について、承認。

【報告事項】

学事報告、大学諸規程(スチューデント・アシスタント制度運用内規)の制定、大学教員の採用等。第178回理事会。2019年11月22日14時から開催。

【審議事項】

次期学長の選任について、次期学長として三谷高康氏(桜美林大学教授・前桜美林大学学長)を選任。なお任期は2021年4月1日から2025年3月31日までであり、新学長就任までの間は、理事会の要請により、湊現学長が引き続き学長の任にあたる。

【報告事項】

学事報告、2020年度予算編成方針、大学教員の採用、慰労金の支給等。

教職員動静

10月1日〜12月27日受付分

誕生

- 晴翔(はると)くん (片山小百合中高教諭(長男) 2019.10.1)
傑(すぐる)くん (佐藤知重紀中高教諭(長男) 2019.10.4)
陽翔(ひなと)くん (水津淳子法人事務局財務課兼大学事務局会計課職員(次男) 2019.10.8)
惺(せい)くん (関谷弘毅大学人文学部国際英語学科准教授(次男) 2019.12.2)
鷹士郎(おうしろう)くん (藤本一菜大学学生課職員(次男) 2019.12.16)
召天 齋藤明司 様

(渡部新 中学教頭(岳父様) 2019.11.2
細田昭三 様 (細田みぎわ 大学人間生活学部生活デザイン学科教授(尊父様) 2019.12.7)
山西成男 様 (松原高己 法人事務局次長兼総務課長(岳父様) 2019.12.19)

人事

採用

服部ゆり(大学実験実習助手) 2019.9.21付
上迫由里(大学実験実習助手) 2019.9.21付

退任

西本杏奈(大学実験実習助手) 2019.9.20付
今西季美恵(大学実験実習助手) 2019.9.20付

日誌抄

10.1(火) 創立記念日
10.2(水) 大学・大学院秋季卒業式
10.3(木) 事務協議会
10.5(土) 幼稚園運動会
10.9(水) 経営会議
10.16(水) 幼稚園入園面接日
10.17(木) 学院運営協議会
10.19(土) 定期評議員会
10.25(金) 監査法人による管理者面談理事会
11.3(日) 祝 中高文化祭
11.4(月) 振替 広島女学院大学開学70周年 学院創立133周年記念講演とシンポジウム「真の国際人とは」

寄附

12月27日受付分まで (敬称略・順不同)

5,000,000円 広島女学院のため

500,000円 故・上野信子 相続人・尾田照子 広島女学院大学のため

580,000円 中高教育充実のため

2,000,000円 秦野壽和

200,000円 重松深雪 中村紀子 那須泰 福岡美香 山縣泉

1,000,000円 チャペルコンサート開催のお礼

アンサンブルアイリス 代表 澤野道子

117(木) 事務協議会

114(木) 経営会議

116(土)、17(日) CD「ふたつの楽器」65枚 徳永恂子 絵画「明日へ」

あやめ祭 11.21(木) 学院運営協議会
11.22(金) 理事会
12.5(木) 事務協議会
12.10(火)、17(火) 会計監査
12.12(木) 経営会議
12.15(日) クリスマスオープン キャンパス
12.17(火) 大学クリスマス音楽礼拝
12.20(金) 中高終業日、クリスマス礼拝

12.22(日) 第35回クリスマスコンサート メサイア 同園会(卒園生の集まり)

12.22(日) 幼稚園クリスマス礼拝

10.000円 有岡公子 内山豊子 久保徹治 阪本真 白瀧真理子 武田真吾 田中チカ子 中川敬子 長西貞美 錦織由美子

10,000円 福田文字 清藤玲子 参加者有志

20,000円 元廣優子 當麻曜子 21,000円

30,000円 クワイヤアイリス

50,000円 吉村景子

1,000,000円 田中聡子 明神信子 1,000,000円 田北展代 武田純子

佐久間聡一・山上華子

創立130周年記念募金

500,000円

株式会社紀陽

200,000円 川合貴久美

50,000円 吉村景子

30,000円 クワイヤアイリス

21,000円 元廣優子

20,000円 當麻曜子

10,000円 福田文字

10,000円 有岡公子

10,000円 内山豊子

10,000円 久保徹治

10,000円 阪本真

10,000円 白瀧真理子

10,000円 武田真吾

10,000円 田中チカ子

10,000円 中川敬子

10,000円 長西貞美

10,000円 錦織由美子

同窓会からのお知らせ

2020年ホームカミングデー

テーマ/継承 ひとりひとりがそのピースに

日時/2020年4月25日(土) 10:30~13:30

場所/リーガロイヤルホテル広島 会費/8,000円

2020ホームカミングデー実行委員会(当番学年)

高校20 短大19 文英2 文日2
高校30 短大29 文英12 文日12
高校42 短大41 文英24 文日24

お問い合わせ/同窓会事務局 TEL・FAX 082-221-1059

編集後記

新年おめでとうございます。2019年は広島女学院創立133周年、大学開学70周年を迎え、日本で初めてラグビーワールドカップが開催された記念すべき年でした。2020年も東京オリンピック・パラリンピックが56年ぶりに日本で開催され、大いに盛り上がるのが期待されます。本学もこの潮流に乗り、皆様とともに教職員一同ONE TEAMとなつて広島女学院を盛り上げていきたいと思っております。(大学 土谷佳弘)

